

左近山中だより

平成 29 年 11 月 28 日
横浜市立左近山中学校
校長 福田 有志
No. 8

本物と出会うこと

副校長 内山 裕二

今年も残りわずかになってきました。12月は1年間の大きな節目であり、気持ちよく新しい年を迎えるために、1年間のやり残しがないよう大掃除をしたり片付けをしたりと、とても忙しい月であることは確かです。「師走」(しわす)とも呼ばれますが、由来は、教師が走り回るくらい忙しい月である。と、聞いたことがあります。実際のところ、教師は12月も忙しいのですが、どちらかというところ、学年末の2月・3月のほうが忙しいような気がします。では、「師」とは誰のことを指すのでしょうか？諸説あるようですが、お坊さんなどのようです。お坊さんは12月になるとお経をあげるために



走り回るほど忙しくなるそうです。昔はお盆と同じように正月も、先祖の霊を弔うというもので、お坊さんが家に行ってお経をあげていたそうです。現代ではなかなかイメージがしにくいですが、地方などに行くといまだにこういった慣習があるようです。そして、師が東西を馳せる(はせる)月であって、「師馳す」(しはす)とも表現したことにもよるようです。



さて、先日(11月19日)に、左近山連合自治会主催の「ふれあいコンサート」が開かれました。このコンサートは、二十数年続いているようですが、毎年この時期に開催され、当日も300名近くの地域の方々が集まりました。出演者のDUO OBBRIGATO(デュオ オブリガート)は、世界的にも例の少ないビオラとコントラバスによる二重奏団、また、DUO-B(デュオビー)は、バイオリンとチェロの二重奏団で、それぞれ二重奏の演奏と、2つのデュオが合同で演奏する弦楽四重奏を聴くことができました。さすがに弦楽器が4本並んでの演奏は圧巻でした。2mくらいの間近で本物を直接耳にすると、音の強弱や広がりを感じることができました。同じものをテレビで見てもその素晴らしさは伝わってこないでしょう。「本物」だったからこそ演奏者の気持ちが楽器を通して伝わってくる感動を味わいました。やはり本物は、心を動かします。子どもたちも本物を体験することでそれぞれの心が豊かになっていくのでしょうか。仮想や空想の世界や画面の向こうの世界ではなく、様々な本物が世界には点在します。子どもたちには、もっと本物と触れ合う機会が増え、もっと身近で簡単に本物を感じる機会が増えるといいですね。DUO-B(デュオビー)で、バイオリンを演奏したのは、コントラバスを演奏する杉本氏の娘さんで、左近山第二小学校、左近山中学校、希望ヶ丘高校を卒業して、ドイツやアメリカで学び、現在はアメリカに住み、世界で活動しているそうです。このように左近山中学校の先輩が世界で活躍したり、他にもたくさんの先輩たちが様々な場所で活躍したりしていると思うとうれしい限りです。この地域から巣立って行ったとしても、いつまでもこの地域に愛着をもち、そしてこの地域に支えられたからこそ今の自分がある、いつか、この地域のことを忘れずにまた戻ってくる、この地域に恩返しをしたいという気持ちがあるように、さらに学校と地域との関係を深めていきたいと考えています。彼女の「小さいころから始めたバイオリンを、地域の方々が応援してくださったおかげで今の自分がある」という言葉がとても印象的でした。

旭区合同宿泊学習

～愛川ふれあいの村～

11月8日（水）～9日（木）の2日間、旭区個別支援学級の合同宿泊学習がおこなわれました。この2日間で服部牧場での乳搾り体験、キャンドルファイヤー、ディスクゴルフ大会、野外炊事を行いました。野外炊事では、前回の大池公園での反省を生かし、それぞれの班が協力しておいしいカレーライスを作ることができました。また、けがや病気等もなく、無事に帰ってくることができました。今回の宿泊学習を通して、一人ひとりが自覚と責任をもって取り組むことができたと思っています。担任としても子どもたちの成長を感じた2日間となりました。



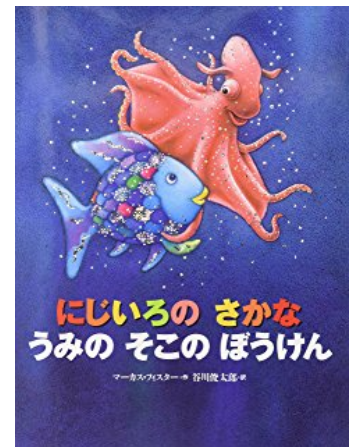
（5組担任 藤岡 直紀）

はまっこ読書の日

11月20日（月）、図書委員会による企画として「はまっこ読書の日」を行いました。今回は「にじいろのさかな うみのそこのぼうけん」の読み聞かせ・「水中の生き物」「冒険」に関わるブックトーク・一年生のPOP作品スピーチ（代表三人）を発表しました。



「にじいろのさかな」シリーズは、一冊目から読むと、『きらきらうろこ』に込められた意味がよく分かり、また絵本としてもとてもきれいです。ブックトークで紹介された本も、POP作品も、ぜひ図書室に見に来てほしいです。



（図書委員会担当 山口 悦子）

先輩から後輩へ

～体験から学んだこと～

三年生は、夏休み明けの国語の授業で「社会との関わりを伝えよう」というテーマでスピーチを行いました。「社会」とつながった経験から学んだことを紹介しました。「地域活動」「職場体験」「修学旅行」「新聞記事から」など、とても良い内容のものが多かったです。それを聞きながら、『職場体験を迎える二年生にぜひ聞いてほしい』と思いました。そこで、初めての試みではありましたが、三年生17人をお願いして、二年生の教室で発表をしてもらいました。緊張しながらも頑張った三年生と、しっかり聞いた二年生と、良い時間になりました。

<二年生の感想から>

- ・自分が働いている所に中学生が来て、あいさつをしなかったら良い印象は持ちません。あいさつの重要性を感じました。
- ・あいさつをすることによって、人の気持ちを明るくしたり笑顔にさせたりするからちょっとでも勇気を出してあいさつすることが大切だと改めて感じました。

- どんな仕事をするにしても、根性とコミュニケーション力は大切だと分かった。そして、仕事をするには自分のことだけではなく、周りの人の気持ちを考えなければいけないと分かった。
- 感謝の言葉を言われるだけで仕事のやりがいを感じる人がたくさんいることがよく分かりました。仕事はたくさんの人と関わって、緊張感、責任感を感じながらやるものだと知りました。
- 先輩方の話を聞いて、「仕事」が少し身近なものに感じられました。仕事のやりがいや責任感などを知りました。
- 実際に体験をすると色々な発見があり、自分の考えが変わることがあると分かったので、職場体験が楽しみにになりました。
- 「あいさつ」と「人と人との関わり合い」について考えながら職場体験にのぞみ、自分の将来について真剣に考えたい。
(2年学年主任 山口 悦子)

職業講座

先日の11月11日(土)に、1年生対象の職業講座を開催いたしました。

No.	講座内容	名称
1	スポーツを職業とすることについて	横浜・F・マリノス
2	食中毒の話、調理実習 (ふわふわハンバーグを作ろう)	食彩工房
3	動物に関する職業について	兵藤動物病院
4	旅行会社の仕事内容 ほか	JTB(株)
5	救命救急の必要性等	南本宿消防出張所
6	障害のある方の福祉についてのお話 車いす体験	空とぶくじら社

横浜・F・マリノス

- 病気になりにくい体を作るには、しっかり運動し、しっかり食べること。
- 体に良い食べ物は、野菜、フルーツ、肉。
- 20歳までは成長するから、それまでにバランスの良い食事をするのが大切。



食彩工房

- 食中毒には、次のものがあります。
 - ①細菌性(カンピロバクター・ピロリ、O-157)→鶏肉をしっかり焼かないと危ない。
 - ②ウイルス性(ノロウイルス)→一番なりやすい。ノロウイルスを完全に防ぐ方法はない。
 - ③その他(アニサキス)→青魚や烏賊(いか)にいる。これらを生で食べるときに注意。アニサキスは加熱や冷凍で死ぬ。
- 不顕性感染は、体内に細菌やウイルスなどが体の中に入って感染しても、発病しないこと。人が知らぬ間に細菌やウイルスを空気中にまき散らしていることがある。
- 予防するには、手洗いと体調管理が大事。



兵藤動物病院

- ・動物が好きで、高校生の夏休みに獣医のお手伝いをした。
- ・動物が好きならトリマー、ブリーダー、ペットショップ、動物園や水族館の飼育員もおすすめ。家畜を扱いたいなら農業高校。
- ・ラブラドルレトリバーやゴールデンレトリバーが主に盲導犬になっている。
- ・動物の治療のときは、動物の気持ちになって接していく。心を開く。



JTB

- ・添乗員→同行してその旅行を安全かつ無事に終了させる人。
- ・この仕事を選んだ理由
人の笑顔を見るのが好き(楽しいものを届けられる)
修学旅行が最高の思い出(最高の思い出を届けたい)
自分の視野が広がった。
旅行が好き。色々な所に行ける。
- ・大変だったこと
質問に満足に答えられない。睡眠がとれない。仕事量が多い。



南本宿消防出張所

- ・危ない状態の所に行って体・手・頭を使って助けるのが消防士。楽しくないのがこの仕事。
- ・人の命と直結すること。そういうことが1つのやりがい。
- ・人に優しくしなくてはできない仕事。責任感が大切。
- ・今後、災害があっても消防の方々は来られない可能性が高いから、近所の人々と力を合わせて自分で助ける。大震災時、7割～8割が一般市民同士で助け合った。



空とぶくじら社

- ・空飛ぶくじら社では、施設の入所者にリズム運動、コミュニケーション、パン屋での作業、農作業をしている。これらの活動を通して、社会とつながる取り組みを行うこと、みんなが暮らしやすい街を作ることを目指している。パン屋さんは人気。
- ・人と人とのつながりを大切に。
- ・福祉とは、「幸せ」、「豊かさ」を意味する言葉。その人が「幸せ」と思えることを手助けする仕事。



生徒は、どの講座でも、メモを取りながら熱心に話を聞いていました。お礼の手紙としてのメッセージカードにも、話の内容をしっかりと受け止め、これからの進路の参考にする旨の言葉が書かれていました。来年には職業体験が控えています。職業講座で学んだことを、実際の体験で活かしてくれることを期待しています。